

書 写

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	書写 002-72	B 5 変型 146	令和 6 年
15	三省堂	三省堂◆	書写 015-72	B 5 122	
17	教育出版	教 出◆	書写 017-72	A B 146	
38	光村図書出版	光 村◆	書写 038-72	B 5 変型 166	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

中学部 書写(視覚障害特別支援学校)

発行者		東書	三省堂	教出	光村
内容	視覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①触覚や聴覚等を活用して、体験的な活動を工夫できるもの。	8箇所 ①「読みやすく書くための動き」では、楷書と行書の文字を指でなぞり、字形や書く時の手の動きの違いを確かめる活動を示している。(P24-25)	5箇所 ①「字形の整え方と筆使い」では、字形の整え方と筆使いを言葉で説明している。(P14-15)	9箇所 ①「行書の筆使い『大』」では、手を筆先に見立てて筆使いを確かめる活動を示している。(P42-43)	5箇所 ①「漢字の筆使い」では、筆使いを擬音語で表現し、リズムを意識して書く活動を示している。(P41)
	視覚障害への配慮を要する内容等について ①視覚を頼りに文字を見比べたり、探したりする活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。	6箇所 ①「身の回りの文字の目的と工夫」では、様々な字体や色、配列で書かれた看板や表示など身の回りの文字を探す活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P72-73)	8箇所 ①「筆順の変化」では、行書と楷書の文字を見比べて、筆順の変化を調べる活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P48)	3箇所 ①「学習を生かして書く—字形、筆順—」では、二種類の手書きの文字を並べて書き方の違いを比べる活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P23)	10箇所 ①「文字の大きさと配列」では、書いた文字を、読みやすくするために直すところを探す活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P46)
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本が大きく鮮明であるもの。	①「書き初めをしよう」では、折り込み4ページ分の大きさと毛筆の手本を示している。(P89-92)	①「書き初め(二年)」では、折り込み4ページ分の大きさと毛筆の手本を示している。(P109-112)	①「書き初めを書く」では、折り込み4ページ分の大きさと毛筆の手本を示している。(P57-60)	①「書き初め一年生」では、折り込み4ページ分の大きさと毛筆の手本を示している。(P149-152)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	なし	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	なし	なし	なし	なし
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし	なし	なし

中学部 書写(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	三省堂	教出	光村
内容	聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①身の回りの文字に関心をもてるように学習活動が工夫できるもの。	14箇所 ①「身の回りの文字の目的と工夫」では、学校や地域で見付けた文字について、特徴や工夫を話し合う活動がある。(P72-75)	6箇所 ①「身のまわりの文字」では、文字に関わる仕事をしている人物の紹介から、文字の魅力について考える活動がある。(P70-71)	17箇所 ①「多様な表現による文字」では、身の回りの文字を見つけて、文字の表現効果を考える活動がある。(P100-101)	14箇所 ①「ユニバーサルデザインフォントって何だろう」では、身の回りの道具や表示から、見やすく読みやすいフォントを知る活動がある。(P96-97)
	聴覚障害への配慮を要する内容等について	なし	なし	なし	なし
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本やポイントを視覚的に分かりやすく示しているもの。	①「読みやすく書くための動き」では、行書の筆使いと筆脈を、補助線や矢印で視覚的に示している。(P26)	①「学習のはじめに」では、文字を書く姿勢や筆の持ち方を写真で視覚的に示している。(P6-7)	①「筆使い-基本点画-」では、筆圧の違いによる線の太さを視覚的に示している。(P16)	①「点画の変化」では、筆使いのポイントを、写真で視覚的に示している。(P55)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	なし	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	なし	なし	なし	なし
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし	なし	なし

中学部 書写(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	三省堂	教出	光村
内 容	肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①上肢の操作を伴うものであっても、補助的な手段等を活用した学習活動が工夫できるもの。	6箇所 ①「本のポップを書く」では、好きな本を紹介するポップを、筆記具や文字の大きさ、配列などを工夫して作る活動を示している。(P60-61)	3箇所 ①「情報誌を作ろう」では、文字の大きさや配置を考えながら地域の魅力をまとめた情報誌を作る活動を示している。(P64-65)	6箇所 ①「さまざまな書く場面」では、場面に応じた書き方について話し合うための観点を示している。(P86-87)	7箇所 ①「楷書と行書の使い分け」では、具体的な場面を示し、楷書と行書のどちらで書くことが適しているか考え、話し合う活動を示している。(P78-79)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	5箇所 ①「書いて味わおう」では、1ページ分の文章をなぞる活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P87)	10箇所 ①「四十七都道府県名」では、行書で示された各都道府県名をなぞり書きする活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P52-53)	11箇所 ①「書く速さを意識して書くー行書と仮名の調和ー」では、一分間に行書でどの程度書けるか取り組む活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P80-81)	20箇所 ①「筆順の変化」では、筆順が変化しているところを鉛筆で囲む活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P70-71)
構 成 上 の 工 夫	障害の状態に応じた事項、 その他 ①まひによる注視の困難を補えるように、手本が大きいもの。	①「点画の省略」では、1ページ全体に毛筆の手本を示している。(P47)	①「字形の整え方と筆使い」では、見開き2ページ全体で毛筆の手本を示している。(P16-17)	①「筆使いと字形」では、見開き2ページ全体で毛筆の見本を示している。(P18-19)	①「点画の変化」では、見開き2ページに毛筆の手本を示している。(P56-57)
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	なし	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	なし	なし	なし	なし
	固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし	なし	なし